

古事記とはなにか

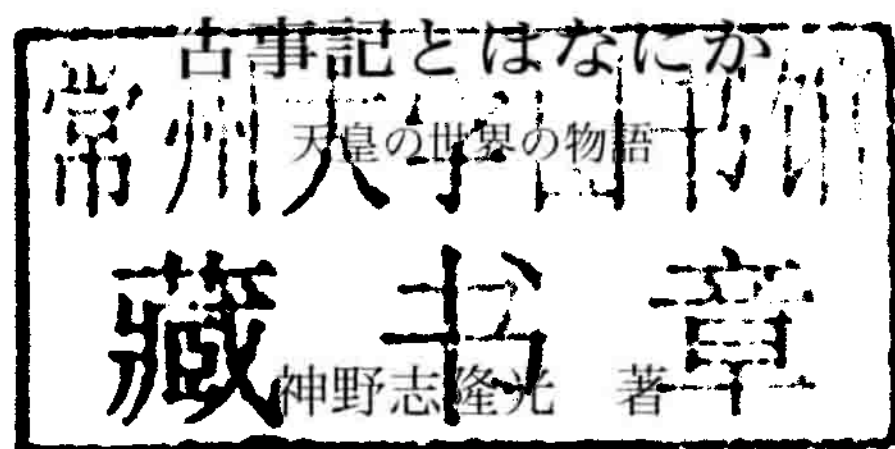
天皇の世界の物語

konoshi takamitsu

神野志隆光



神野志隆光



講談社学術文庫

神野志隆光（こうのし たかみつ）

1946年生まれ。和歌山県出身。東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授を経て、現在、明治大学大学院特任教授。東京大学博士（文学）。専攻は、日本古代文学。おもな著書に、『古事記の達成』『柿本人麻呂研究』『古事記と日本書紀』『「日本」とは何か』『複数の「古代」』『漢字テキストとしての古事記』『変奏される日本書紀』『本居宣長「古事記伝」を読む』Ⅰ～Ⅲなど。



定価はカバーに表示してあります。

こ じ き
古事記とはなにか
てんのう せ かい ものがたり
天皇の世界の物語
こうのし たかみつ
神野志隆光

2013年9月10日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Takamitsu Konoshi 2013 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊞(日本複製権センター委託出版物)

ISBN978-4-06-292190-9

目次

古事記とはなにか

はじめに	3
序章 『古事記』の成り立ち	12
1 『古事記』の成立	12
2 東アジア世界の歴史状況と『古事記』	26
第一編 世界の物語としての神話	45
第一章 『古事記』神話への視点	46
1 方法の問題	46
2 神話的世界の主題	54
第二章 世界の成り立ちの物語	68
1 天地初発	68
2 「初発」の神々——ムスヒへの視点	86
第三章 世界の生成——「修理固成」の物語	102

1	イザナキ・イザナミの物語	102
2	黄泉国の話	115
3	大国主神による国作りの完成	122
第二編 天皇の正統性の論理		
145		
第一章 正統性を保障するアマテラス		
146		
1	世界関係の確認としてのアマテラス物語	146
2	天孫降臨	169
第二章 古代神話の多元性と『古事記』		
189		
1	『古事記』の構造	189
2	『日本書紀』の構造	198
3	多元的な神話化	213

第三編	天皇の物語	223
-----	-------	-----

第一章	大八島国の秩序化と朝鮮半島に及ぶ「天下」	224
-----	----------------------	-----

1	神武天皇の物語	225
---	---------	-----

2	倭建命の物語	234
---	--------	-----

3	応神天皇の物語	254
---	---------	-----

第二章	めでたく満ち足りた「天下」	265
-----	---------------	-----

1	「色好み」の聖帝仁徳	266
---	------------	-----

2	充足の世をあらしめた大王雄略	287
---	----------------	-----

第三章	悲劇の主人公たち	307
-----	----------	-----

1	サホビメの物語	307
---	---------	-----

2	軽太子の物語	321
---	--------	-----

あとがき		334
------	--	-----

学術文庫版にあたって		337
------------	--	-----

古事記とはなにか

天皇の世界の物語

神野志隆光 著

講談社学術文庫

はじめに

『古事記』が、八世紀初頭（七一二年）に成立した、日本文学史上也つとも古い作品であることはよく知られている。そこには神話を含み、古代天皇をめぐるさまざまな話を載せる。これをどう読むか。長い研究史があり、多くの研究が重ねられている。

しかし、根本的な態度の問題として、なお問われねばならないところがある。それは端的に言えば成立論的な発展段階的理解の問題である。たとえば、神話の場合、元来の共同体的社会において生きた神話がもとにあり、それが政治的に体系化され、さらに高度に政治化体系化されて『古事記』となったというとらえかたであり、それは、『古事記』神話の批判を通じて元来の神話を考える論議として広く行われている。石母田正「国作りの物語について」の覚書（『石母田正著作集』第十巻）が、『古事記』のオホナムチまたはオホクニヌシの物語のなかに「デスポティズムとは異質の物語」が存在することを見出そうとし、岡田精司「国生み神話について」（『古代王権の祭祀と神話』）が、記紀のイザナキ・イザナミ神話は、「淡路の地方神話」としての「島造り」にもとづいていることを見ようとしたことなどが、その代表的な成果として想起される。

だが、そうしたとらえかたでは、『古事記』は正当には理解できないのではないか。イザナキ・イザナミの神話に即していえば、『古事記』と『日本書紀』とのイザナキ・イザナミ神話は、もともとの神話が二つのテキストのなかでつくりかえられてあるというのではなく、『古事記』なら『古事記』という作品の全体とともににはじめて具体的な形をとると見るべきものではないか。作品としての全体は、個々の話が集められて全体となるようなものではない。具体的ないえば、『古事記』は、天と地とがいかにして天地となつたかという、創世そのものにはふれることなく、天と地となつて動いていくところから世界を語り出す（この冒頭理解の問題については、本書第一編第二章参照）。そして、その天地がはじまつたとき、高天原にあらわれた神が、天地を世界として成り立たせていく。そうした世界の物語として語り出していくところで、イザナキ・イザナミの物語は、高天原に登場して天の世界から天神の命を受けて降り、国の世界をつくることをになう神としての物語をはじめ具体的に形づくるということではないか。

それ以前に何かがありえたかもしれない。しかし、そのありえたかもしれないものと、『古事記』のなかに具体化したところとは、異質というほかない。『古事記』のイザナキ・イザナミの話としてのまとまりを、それだけ取り出したところで、ありえたかもしれないものを考えることなどできない。全体が部分を意味あらしめているのである。いい方をかえれば、『古事記』が自らを可能にするのは、素材の集積によってではなく、その全体としての

構造と論理とをもつことによつてであるはずだということである。大事なのは、『古事記』が成り立たせている全体につながるところでその話を見届けていくことであろう。まさに「全体が部分に遍在する」ことを忘れてはならないのである（西郷信綱「古事記を読む」『古事記注釈』第一巻）。むろん『古事記』が完璧だということではない。さまざまな問題を含む。それを成立に解消するのではなく、全体理解の問題として問わねばならない。

部分が、全体によつて部分でありうるというべきなのだ。そのように作品としての構造を見定めることに向かいつつ、『古事記』を読み通すことがもとめられる。本書はそうした読み方をめざす。

それは天皇の世界の物語として読む、ということに帰着する。五世紀以来中国の「天下」の外に自らの「天下」——天皇の「天下」——を主張し追求することは、八世紀初めに律令国家として完成を見るにいたる。その天皇の世界を根拠づけるものとして、現実が何に負っているかを、まるごと語る物語がもとめられる。世界の成り立ちからはじめて語るところ、そうした天皇の世界の物語として見るべきである。神々↓その神からつながる天皇、という物語としての一貫性において読み通すべきであり、そこで、たとえば人間の起源について神話的にのべることはないのは、物語の主題上ありえないという必然的なありようとして理解することができる（この点は、本書第一編第一章参照）。『古事記』の神話・説話をとりあげて、そこから一般的に神話・説話を論じてしまうのは、次元の違うところへ論議を横すべり

させることにしかならない。それはひらかれた『古事記』論のようであって虚構の論にすぎないのではないか。そうした反省とともに、いうならば作品論的立場から、本書は『古事記』を読むことを試みる。

目次

古事記とはなにか

はじめに	3
------	---

序章 『古事記』の成り立ち	12
---------------	----

1 『古事記』の成立	12
2 東アジア世界の歴史状況と『古事記』	26

第一編 世界の物語としての神話	45
-----------------	----

第一章 『古事記』神話への視点	46
-----------------	----

1 方法の問題	46
2 神話的世界の主題	54

第二章 世界の成り立ちの物語	68
----------------	----

1 天地初発	68
2 「初発」の神々——ムスヒへの視点	86

第三章 世界の生成——「修理固成」の物語	102
----------------------	-----

1	イザナキ・イザナミの物語	102
2	黄泉国の話	115
3	大国主神による国作りの完成	122
第二編 天皇の正統性の論理		
145		
第一章 正統性を保障するアマテラス		
146		
1	世界関係の確認としてのアマテラス物語	146
2	天孫降臨	169
第二章 古代神話の多元性と『古事記』		
189		
1	『古事記』の構造	189
2	『日本書紀』の構造	198
3	多元的な神話化	213

第三編	天皇の物語	223
第一章	大八島国の秩序化と朝鮮半島に及ぶ「天下」	224
1	神武天皇の物語	225
2	倭建命の物語	234
3	応神天皇の物語	254
第二章	めでたく満ち足りた「天下」	265
1	「色好み」の聖帝仁徳	266
2	充足の世をあらしめた大王雄略	287
第三章	悲劇の主人公たち	307
1	サホビメの物語	307
2	軽太子の物語	321
あとがき		334
学術文庫版にあたって		337